

# 太田下町の家

(2010年8月完成)

設計  
M計画設計室

三井武一

Takeichi Mii



## 家族の暮らしを彩る白いキャンパスの家

「太田下町の家」のオーナーご夫妻が最初に建てようネットを訪れたのは、2009年10月。ミライプラーの実例ファイルを見て気になった建築家・三井武一さんに設計を依頼することに。土地選びの相談も含めて約1年で完成した住まいは、「広いバルコニーとサーフボードの入る外部収納、白い家などオーナーの希望を取り入れた木造2階建て。外壁はジョリパットのコテ仕上げ、平屋部分にガルバリウムを使用。白い外壁部分は底の形状やサッシの納まりにも気を配り、汚れが壁を伝わりにくいように配慮している。インテリアは木が主張しすぎると嫌ということで、壁を珪藻土のコテ仕上げ、床を含めた木部はオスモカ



構造	木造
工法	在来工法
敷地面積	165.31㎡(約50.01坪)
延床面積	144.08㎡(約43.58坪)
1階	85.29㎡(約25.80坪)
2階	58.79㎡(約17.78坪)
設計期間	2009年11月～2010年2月
工事期間	2010年3月～2010年8月
施工	富士建設株式会社

ラーで木目を生かした白い仕上げに。仕上げの自然さは施工を担当した富士建設の職人さんたちの仕事だ。「全体に白っぽくナチュラルな仕上げのインテリアは、白いキャンパスのように、これからどんな絵が描かれていくのか楽しみです」と三井さん。

# 仏生山の家

(2010年8月完成)



設計  
株式会社プラン・リール

高岡栄次

Eiji Takaoka



## 住むことを楽しむ家

建物としてのボリュームはあまるもの、外観は白い外壁や屋根の形状、芝生の法面によって重厚すぎない印象の「仏生山の家」。設計を担当した建築家・高岡栄次さんが打合せの中でオーナーご夫妻から感じたのは、「住むことを楽しみたい」という住宅への思い。まずは床暖房の導入や屋根・外壁・サッシの断熱性能確保、風の流れ方をきちんと考慮することで、住まいとしての快適性を確保しつつ、例えば寝室には、天窓が設けられたロフトにつながる吹抜空間があり、開放されたプライ

ベート空間となっている。「生活のエネルギー基地ができました」と高岡さん。ベットと遊べる中庭やハンモックで寛ぐバルコニー、ゆつくりと寝そべって本を読むことができる書斎、居間の螺旋階段から各室を回遊できる空間構成など、家のどこにいても楽しめたり癒されたりする要素が存在する。たしかに家族がみんな元気になれそうな住まいだ。施工は「太田下町の家」と同じ富士建設。

構造	木造
工法	在来工法
敷地面積	183.66㎡(約55.56坪)
延床面積	99.70㎡(約30.16坪)
1階	81.98㎡(約24.80坪)
2階	17.72㎡(約5.36坪)

設計期間 2009年8月～2010年2月  
工事期間 2010年3月～2010年8月  
施工 富士建設株式会社

